2014 年 4 月 22 日

共立出版「数学小辞典第２版」正誤・訂正表

数学小辞典第 2 版編集委員

2010 年 4 月 15 日発行の第 2 版 1 刷における誤りを下記のとおり訂正いたします．

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.15	いそう 位相	「集合に $\cdots$ を述べる」（第一段落）	集合に適当な構造*を与えると，極限や連続の概念が定義できるようになる．そのような構造を位相という．ある集合 S に位相を導入するにはいくつかの方法があるが，最もふつうに行われる開集合族による方法を述べる	第 2 版 2 刷で修正
		(2) 任意個 $\cdots$ に属する． (3) 有限個の $\cdots$ に属する．	(2) 任意個（無限でもよい）の $O_i \in T$ の和集合 $\cup_i O_i$ は T に属する． (3) 有限個の $O_i \in T$ の共通部分 $\cap_i O_i$ は T に属する．	
		$\cdots$ S の開集合という．このように集合 S に $\cdots$	$\cdots$ S の開集合という．したがって，T は位相 T に関する開集合全体のなす集合族である．このように集合 S に $\cdots$	
p.18	いちじしゃぞう 1 次写像	$\boldsymbol{w} = f(\boldsymbol{v}) = \sum_{j=1}^{n} x'_i \boldsymbol{e}'_i$	$\boldsymbol{w} = f(\boldsymbol{v}) = \sum_{i=1}^{n} x'_i \boldsymbol{e}'_i$	
p.20	いちのべきこん 1 のベキ根	（重複可）	削除	
p.44	エルミートのほうていしき —の方程式	この解は	この解の一つは	
p.64	かいすうひょうじゅんけい 階数標準形	$F_r = \cdots = \begin{pmatrix} E_r & O \\ O & O \end{pmatrix}$	$F_r = \begin{pmatrix} E_r & O \\ O & O \end{pmatrix}$	
p.66	かいせきてきせいすうろん 解析的整数論	$\pi(x)$ も限りなく大きくなるか，また，ガウスが予想した	$\pi(x)$ も限りなく大きくなるが，ガウスが予想した	
p.71	かいへい 開平	3. $\cdots$ 上から下ろしてきた数 32 と合わせて 3207．	3. $\cdots$ 上から下ろしてきた数 07 と合わせて 3207．	
p.76	かく 核	$\mathrm{Ker}\, f = \{a \in R \mid f(a) = 0_R\}$．ただし，$0_R$ は環の零元である．	$\mathrm{Ker}\, f = \{a \in R \mid f(a) = 0_{R'}\}$．ただし，$0_{R'}$ は環 R' の零元である．	
p.86	かずのたいけい 数の体系	$\mathbb{Q}$ から 0 を除いた集合は体をなす．	$\mathbb{Q}$ から 0 を除いた集合は乗法群をなし，$\mathbb{Q}$ は体である．	「すうのたいけい」とも言う
		実数の集合 $\mathbb{R}$ はアルキメデス的順序体として特徴づけられる．	実数の集合 $\mathbb{R}$ は完備なアルキメデス的順序体として特徴づけられる．	
		イギリスではアラビアの影響を受け，	ヨーロッパではアラビアの影響を受け，	
p.97	ガロアりろんのきほんていり —理論の基本定理	L の自己同型写像の全体 $\mathrm{Aut}(L/K)$ は写像の合成に関して群をつくる．$\cdots$ L の K 同型写像の全体は $\mathrm{Aut}(L/K)$ の部分群 をつくり，	L の自己同型写像の全体は写像の合成に関して群をつくる．$\cdots$ L の K 同型写像の全体は部分群 $\mathrm{Aut}(L/K)$ をつくり，	
p.104	かんぜんきんぼうけい 完全近傍系		項目を削除	第 2 版 2 刷で修正
p.108	かんやく 簡約	$ac = bc$ ならば $a = b$ が成り立つとき，c を簡約する $\cdots$	$ac = bc$ ならば $a = b$ が成り立つ．このとき c を簡約する $\cdots$	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.120	きほんきんぼうけい 基本近傍系	$\boxed{\text{別}}$ 完全近傍系	削除	第 2 版 2 刷で修正
		基本近傍系を完全近傍系，$\cdots$ ともいう．	基本近傍系を近傍の基，または基底ともいう．p の開近傍全体は p の基本近傍系となる．また，距離空間*の場合は，p の ε-近傍全体も p の基本近傍系となる．	
p.121	きほんべくとる 基本—	（平面内の）$\mathrm{E}_1(0,1)$	$\mathrm{E}_1(1,0)$	
p.125	ぎゃくちかん 逆置換	置換の全体は 3 次の対称群，または 3 次の置換群とよばれる群を作る．	置換の全体は n 次の対称群，または n 次の置換群とよばれる群を作る．	
p.143	ぎょうれつのえんざん 行列の演算	(2) の加法と (3) の乗法に関して，同じ形の行列の全体は環（全行列環）を作る．	(2) の加法と (3) の乗法に関して，同じ形の正方行列の全体は環（全行列環）を作る．	
p.155	キンチンのていり —の定理	項目「キンチンの定理」全体	「キンチンのていり　—の定理 [Khintchine's theorem] = ヒンチンの定理」とし．新たに項目「ヒンチンの定理」を作って，そちらに解説を移動	第 2 版 2 刷で修正
p.155	きんぼう 近傍	(1) の記述全体	(1)　位相空間 S の点 p に対して，S の部分集合 V は，$p \in U \subset V$ なる開集合 U が存在するときに点 p の近傍といわれる．直観的にいうと，V が p の近傍であるとは，p にある程度近い点はすべて V に含まれることを意味する． 　位相空間 S の開集合は，それが p を含めば p の近傍になる．このような近傍を特に開近傍という．	第 2 版 2 刷で修正
p.155	きんぼうこうり 近傍公理	(3) の記述全体	(3)　$U(p) \ni U$ とすれば，$W \in U(p)$ で，W の任意の点 q に対して $V_q \in U(q)$ で $V_q \subset U$ となるようなものが存在する．	第 2 版 2 刷で修正
			以下を最後に追加 「なお，基本近傍系の代わりに全近傍系*を考えた場合は，全近傍系の項目中の (i)–(iv) が近傍公理と同様な役割を果たすので，これらを近傍系の公理ということが多い．」	
p.160	くさびがたもんじ 楔形文字	1000 を表す楔形文字の図	図の中央の楔形を，上下逆転させる	
p.166	クラーメルのこうしき —の公式	$(j = 1, 2, \ldots, n)$ とおく．	$(j = 2, \ldots, n-1)$ とおく．	
p.203	コーシーのせきぶんていり —の積分定理	z が c の内部にあれば，	z が C の内部にあれば，	
p.205	こていたい 固定体	$L^H = \{a \in L \mid \sigma(a) = a, \forall \sigma \in G\}$	$L^H = \{a \in L \mid \sigma(a) = a, \forall \sigma \in H\}$	
p.207	こゆうち 固有値	$\lvert \lambda E - A \rvert = \begin{vmatrix} -\lambda & 1 \\ -1 & -\lambda \end{vmatrix} = \lambda^2 + 1 = 0$	$\lvert \lambda E - A \rvert = \begin{vmatrix} \lambda & -1 \\ 1 & \lambda \end{vmatrix} = \lambda^2 + 1 = 0$	
p.209	コワレフスカヤ	ソビエト生まれの	帝政ロシア時代のモスクワ生まれの	
p.212	こんのぶんり 根の分離	（→ ステェルムの定理）	（→ ステュルムの定理）	
p.214	サイクライド	固定した三つの球面	互いに接する，固定した三つの球面	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.214	サイクルマトロイド	E が G のある閉路（cycle）の	X が G のある閉路（cycle）の	第 2 版 2 刷で修正
p.231	さんじきょくめん 3 次曲面	シュレブリ–サルモン–ケーリーの定理	シュレフリ–サルモン–ケーリーの定理	
p.233	さんじゅつきかへいきん 算術幾何平均	$c_n = (b_n - a_n)/2$	$c_0 = 1/\sqrt{2}, c_{n+1} = (b_n - a_n)/2$	
p.238	しかくけい 四角形	順に線分で結んでできる図形	互いに交わらないように，順に線分で結んでできる図形	
p.238	しかくけいのけっていじょうけん 四角形の決定条件	四角形 ABCD を定めるには	凸四角形 ABCD を定めるには	「四角形」の項で記したように，ここでの四角形は凸四角形を指しているが，誤解のないよう，「凸四角形」と修正します．
p.244	ししん 視心	平画面を地平面ということもある．	平画面が立画面と交わる直線を基線という．	
		p.244 の図中の点 G, L の位置	図中の点 G, L を，平画面と立画面の交線（基線）の部分（平画面上）に移動	
		$\mathrm{S_1A_1}$ と地平線 GL との交点 $\mathrm{A'_c}$ より GL に垂線を引き，	$\mathrm{S_1A_1}$ と基線 GL との交点 $\mathrm{A'_c}$ より地平線に垂線を引き，	
p.246	しすうのかくちょう 指数の拡張	任意の有理数 $\dfrac{q}{p}$ $a^{\frac{q}{p}} = \sqrt[p]{a^q}\ (a \geqq 0)$	任意の有理数 $\dfrac{q}{p}\ (p > 0)$ $a^{\frac{q}{p}} = \sqrt[p]{a^q}\ (a > 0)$	
p.253	しぼうりつ 死亡率	$l - \dfrac{l_{x+n}}{l_x}$	$1 - \dfrac{l_{x+n}}{l_x}$	
p.259	しゅうけつしき 終結式	b_0 が n 個続いている．	b_m が n 個続いている．	b_0 も n 個続いているが，対角要素ではない．
p.263	しゅうせきてん 集積点	（p のいかなる近傍をとっても，$\cdots$）	（ハウスドルフ空間では，p のいかなる近傍をとっても，$\cdots$）	
p.269	しゅじくもんだい 主軸問題	$\boldsymbol{x}'A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{y}'(TAT')\boldsymbol{y} = \boldsymbol{y}'\Lambda\boldsymbol{y}'$	$\boldsymbol{x}'A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{y}'(TAT')\boldsymbol{y} = \boldsymbol{y}'\Lambda\boldsymbol{y}$	
p.272	シュワルツのふとうしき —の不等式	$\displaystyle\sum_{i=1}^{n} a_i b_i \leqq \left(\sum_{i=1}^{n} a_i^2\right)^{\frac{1}{2}} \left(\sum_{j=1}^{n} b_j^2\right)^{\frac{1}{2}}$	$\displaystyle\left|\sum_{i=1}^{n} a_i b_i\right| \leqq \left(\sum_{i=1}^{n} a_i^2\right)^{\frac{1}{2}} \left(\sum_{j=1}^{n} b_j^2\right)^{\frac{1}{2}}$	
p.277	じゅんにじほうていしき 純 2 次方程式	$x = \pm\sqrt{\dfrac{c}{a}}$	$x = \pm\sqrt{-\dfrac{c}{a}}$	
p.284	しょうすう 小数	ベルギーのシモン・ステヴィン	シモン・ステヴィン	
p.285	しょうてんきょり 焦点距離	$\mathrm{PF} = a - ex, \mathrm{PF'} = a + ex$	$\mathrm{PF} = \lvert a - ex\rvert, \mathrm{PF'} = \lvert a + ex\rvert$	
p.294	ジョルダンそくど —測度	$r \to 0$ とすると，S_Δ は単調増加，S'_Δ は単調減少で，ともに有界でそれぞれ収束し，	$r \to 0$ とすると，S_Δ と S'_Δ はともに有界でそれぞれ収束し，	
p.300	しんわすう 親和数	a の約数の和が b に等しく，b の約数の和が a に等しいとき，	a の a 以外の約数の和が b に等しく，b の b 以外の約数の和が a に等しいとき，	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.309	すうりかいせきけんきゅうじょ 数理解析研究所	Research Institute for Mathematical Science	Research Institute for Mathematical Sciences	
p.314	ステヴィン	ベルギーの数学者	現在のベルギーの都市ブルージュに生まれ，当時のオランダ共和国で生涯の大半を過ごした数学者	
p.314	ステヴィンのしょうすう —の小数	ベルギーのシモン・ステヴィンは	シモン・ステヴィンは	
p.322	せいじゅんざひょう 正準座標	シンプレクティック形式が $(q_1, q_2, \dots, q_n, p_1, p_2, \dots, p_n)$	シンプレクティック形式が $dp_1 \wedge dq_1 + dp_2 \wedge dq_2 + \cdots + dp_n \wedge dq_n$	
p.324	せいすうろんてきかんすう 整数論的関数	（k 個の相異なる素数の積であるとき）	（n が k 個の相異なる素数の積であるとき）	
p.325	せいそくかんすう 正則関数	正則関数 [regular function]	正則関数 [regular function, holomorphic function]	第 2 版 2 刷で修正
p.326	せいたかくけいのかきかた 正多角形の書き方	正多角形の書き方	正多角形の描き方	
		しかし，o これには	しかし，これには	第 2 版 1 刷は問題ありませんが，第 2 版 2 刷 3 刷で誤植が発生しました．
p.333	せきくうかん 積空間	$\cdots$ が連続となるような位相 $\boldsymbol{T}$ をいう．	$\cdots$ が連続となるような最も弱い位相 $\boldsymbol{T}$ をいう．	
p.346	ぜんきんぼうけい 全近傍系	(iv) の記述全体	(iv) 与えられた近傍 $V \in V(p)$ に対して，適当な $U \in V(p)$ をとれば，U 内の任意の点 q に対して $V(q) \ni V$	第 2 版 2 刷で修正
p.349	ぜんじゅんじょ 全順序	ある集合の部分集合全体が作る集合は	2 個以上の元を含むある集合の部分集合全体が作る集合は	
p.358	そうきょくせんのほうていしき 双曲線の方程式	原点 O を中心とし，x 軸と y 軸を軸にもつ $\cdots$	原点 O を中心とし，右図のような x 軸と y 軸を軸にもつ $\cdots$	
p.362	すついくうかん 双対空間	これを基底を $\{\boldsymbol{e}_1, \boldsymbol{e}_2, \dots, \boldsymbol{e}_n\}$ の双対基底という．	これを基底 $\{\boldsymbol{e}_1, \boldsymbol{e}_2, \dots, \boldsymbol{e}_n\}$ の双対基底という．	
p.365	そうようきょくせん 双葉曲線	この曲線の方程式は $(x^2+y^2)^2 = x^2(ax+by)$ である．	この曲線の方程式は x, y の 4 次式となる．	この式は誤っていますが，正しい式はかなり複雑なものなので，ここには記さないことにします．
p.367	そくど 測度	文中 (2) 内の 2 つの不等式	上段の式を削除する	2 式とも同じ内容なので
p.370	そたい 素体	最小の体を素体という．	体がそれ自身の他に部分体をもたないとき，その体は素体であるという．	
p.380	だいすうけい 代数系	二つの代数系 $R, \overline{R}$ が，同じ構造 (P, C) をもつとき，$R, \overline{R}$ は同型であるという． $\longrightarrow$ 代数的構造	$\longrightarrow$ 代数的構造，同型	「同じ構造 (P, C) をもつ」の明確な定義がされていないので，この一文は削除します．なお，群同士，環同士など，同じ種類の代数系の同型については，「同型」の項目を参照．

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.381	たいすうせいきぶんぷ 対数正規分布	$f(z;\mu,\sigma^2)=\cdots$	$f(x;\mu,\sigma^2)=\cdots$	
p.381	だいすうたようたい 代数多様体	n 次元射影空間 k^n において	n 次元射影空間において	
p.383	たいすうのほうそく 大数の法則	大数の法則 [law of great number]	大数の法則 [law of large numbers]	
p.385	たいすうらせん 対数螺線	という直線とこの曲線との交点における接線は，すべて平行であることから，	という直線とこの曲線の交点における接線とのなす角がすべて等しいことから，	
p.391	だえんのほうていしき 楕円の方程式	$\begin{vmatrix} a & h & g \\ h & b & h \\ g & f & c \end{vmatrix} \neq 0$	$\begin{vmatrix} a & h & g \\ h & b & h \\ g & f & c \end{vmatrix} < 0$	
p.403	たんたえんすいとうえい 単多円錐投影	$y=\cot u\cos(v\sin u)$	$y=u+(\cot u)(1-\cos(v\sin u))$	
p.414	ちょうきかきゅうすう 超幾何級数	$\log(1+x)=xF(1,1,2;x)$	$\log(1+x)=xF(1,1,2;-x)$	
p.416	ちょうふくてん 重複点	(i) $x^3-3xy+y^3=0$	(i) $2x^3-3x^2+3(2x+1)y^2=0$	なお，方程式 $x^3-3xy+y^3=0$ のグラフは，掲載されている「(i) のグラフ」を，原点を中心として，反時計回りに 45° 回転させたものです．
p.424	ちょっこうじくのへんかん 直交軸の変換	$\begin{cases} x'=x\cos\theta+y\sin\theta+a \\ y'=-x\sin\theta+y\cos\theta+b \end{cases}$	$\begin{cases} x=x'\cos\theta-y'\sin\theta+a \\ y=x'\sin\theta+y'\cos\theta+b \end{cases}$	
		$\begin{cases} x'=l_1x+m_1y+n_1z+a \\ y'=l_2x+m_2y+n_2z+b \\ z'=l_3x+m_3y+n_3z+c \end{cases}$	$\begin{cases} x=l_1x'+l_2y'+l_3z'+a \\ y=m_1x'+m_2y'+m_3z'+b \\ z=n_1x'+n_2y'+n_3z'+c \end{cases}$	
p.427	ついせききょくせん 追跡曲線	P の速さと $\cdots$ となる．	時刻 $t=0$ で P が点 $(0,1)$ にあり，Q が原点 $(0,0)$ にあるとする．このとき，Q の速さと P の速さの比を k とすると，P の座標 (x,y) の間には，$k\neq 1$ のとき $$x=\frac{1}{2}\left(\frac{1-y^{1-k}}{1-k}-\frac{1-y^{1+k}}{1+k}\right),$$ $k=1$ のとき， $$x=\frac{1}{2}\left(\log\frac{1}{y}-\frac{1-y^2}{2}\right)$$ という関係がある．	
p.432	ていすうけいすうせんけいへんびぶんほうていしき 定数係数線形偏微分方程式	$\Delta=\sum_{j=1}^{n}\frac{\partial}{\partial x_j^2}$	$\Delta=\sum_{j=1}^{n}\frac{\partial^2}{\partial x_j^2}$	
p.434	ティーぶんぷ t 分布	統計量 t の定義式中分母の平方根の中 $\sum_{i=1}^{n}(X_i-X)^2$	$\sum_{i=1}^{n}(X_i-\overline{X})^2$	
p.435	テイラーえん —円	これはテイラーの発見したもので，	これはテイラー（Henry Martin Taylor (1842–1927)）の発見したもので，	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.437	デカ	(the ten commandants)	(the ten commandments)	
p.441	デランジュのさんとうぶんきょくせん —の三等分曲線			この項目を削除
p.456	とうせきえんすいとうえい 等積円錐投影	$f(v)^2 = \dfrac{1}{n}\sin v + c$	$f(v)^2 = 2\left(\dfrac{1}{n}\sin v + c\right)$	
p.469	トライセカント			「デランジュの三等分曲線」の削除にともなって，この項目も削除
p.473	ないせき 内積	V に正規直交基* $\boldsymbol{e}_1, \boldsymbol{e}_2, \ldots, \boldsymbol{e}_n$ を選び,	有限次元ベクトル空間 V において，基底* $\boldsymbol{e}_1, \boldsymbol{e}_2, \ldots, \boldsymbol{e}_n$ を選び,	
p.481	2 項定理	また $\alpha < 0$ ならば	また $\alpha > -1$ ならば	
p.482	ニコメデスのコンコイド	g を x 軸とし，O を通り g に垂直な直線を y 軸とする直交座標系では， $$(x-a)^2(x^2+y^2) = l^2x^2$$ で表わされる．	O を通り g と平行な直線を x 軸とし，O を通り g に垂直な直線を y 軸とする直交座標系では， $$(y-a)^2(x^2+y^2) = l^2y^2$$ で表される．	
p.483	にじきょくせんのぶんるい 2 次曲線の分類	$\cdots$ 2 次曲線という．固有 2 次曲線には楕円・双曲線・放物線がある．$D = 0$ の場合には，分解して二つの直線となる．	$\cdots$ 2 次曲線という．2 次曲線が空集合や 1 点に退化しない場合は，固有 2 次曲線には楕円・双曲線・放物線がある．$D = 0$ の場合には，分解して二つの直線となる（重なって一つの直線となる場合を含む）．	
p.483	にじきょくめんのぶんるい 2 次曲面の分類		(1) に直前に，「2 次曲面が空集合や 1 点あるいは直線に退化しない場合は，Δ, D の値によって次のように分類される．」を挿入	
			(1) の文中の「虚楕円面・」を削除	
p.486	にじゅうこんごうしき 2 重根号式	一般に $\sqrt[n]{a+\sqrt{b}} = x + \sqrt{y}$ ならば $\sqrt[n]{a-\sqrt{b}} = x - \sqrt{y}$ である．	削除	一般の a, b, x, y に対しては成立しないので，削除します．
p.503	ハイネ–ボレルのていり —の定理	F を有界閉集合とし，	F をユークリッド空間の有界閉集合とし，	
p.506	はきだす 掃き出す	第 k 行 + 第 i 行 $\times(-a_{ik})$ として	第 k 行 + 第 i 行 $\times(-a_{kj})$ として	
p.507	ハザードかんすう —関数	$h(y) = \lim\limits_{\delta y \to \infty} \cdots$	$h(y) = \lim\limits_{\delta y \to 0} \cdots$	
p.510	パップスのていり —の定理	これはパップスの定理の特別な場合である．	これはパスカルの定理の特別な場合である．	
p.513	ハミルトンのゲーム	二つの頂点から出発して，	一つの頂点から出発して，	
p.537	ビュルギ	1622 年に	1620 年に	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.542	ヒルベルトのきていていり —の基底定理	体上 K の	体 K 上の	
p.542	ヒルベルトのもんだい —の問題	17. 定符号の関数を平方和として表わすこと（解決）	17. 定符号の有理式を平方和の商として表わすこと（解決）	
p.546	ファイバーバンドル	3 行目の「G は位相群*で次の条件を満たすとする.」から 13 行目の (2) 末まで.	G を位相群*とし，空間 F に変換群*として作用しているとする．すなわち，$g \in G$, $y \in F$ に対して，F の元 $\eta(g,y)$ が定まり，$\eta(g_1g_2,y) = \eta(g_1,\eta(g_2,y))$ $(g_1,g_2 \in G, y \in F)$ であって, G の単位元 e に対して $\eta(e,y) = y$ $(y \in F)$ を満たすとする．また，$\eta(g,y) = y$ がすべての $y \in F$ に対して成り立てば $g = e$ であるとする.	バンドル空間を全空間（toal space），基礎空間を底空間（base space）と呼ぶのが一般的であり，用いる記号も，全空間は E, 底空間は B で表わすことが多い.
p.549	フィールズしょう —賞	調査積分の研究	調和積分論とその代数多様体への応用の研究	
p.551	フェルマーのさいしゅうていり —の最終定理	自然数解 x, y をもたない	自然数解 x, y, z をもたない	
p.555	ふくたい 複体	（条件 (3) の中）「高々有限個の単体と交わる」	高々有限個の単体とのみ交わる	
p.557	ブーケー	曲線の 1 点の付近での性質を詳しく研究した.	幾何学と微分方程式の研究に寄与した.	
p.557	ふごう 符号	0 と正・負の合わせた全体の体系を,	0 と正・負の数を合わせた全体の体系を,	
p.559	ふちエルミートけいしき 負値—形式	すべての z_i に対して,	すべての複素数 z_i に対して,	
p.560	ふていけい 不定形	(2) $f(x) \to \infty, g(x) \to \infty$ のとき	(2) $f(x) \to \pm\infty, g(x) \to \pm\infty$ のとき	
p.561	ふていせきぶん 不定積分	第 2 段落の最後「$F'(x)$ の原始関数の一つは $F(x)$ となる.」	$F'(x)$ の不定積分は $F(x) +$ 定数 となる.	
p.568	ブリアンション	（1785–1864）	（1783–1864）	
p.570	ふりょういき 負領域	曲線 $f(x,y) = 0$ は，この領域の境界である.	連続関数の場合，この領域の境界点では $f(x,y) = 0$ である.	
p.576	ぶんすうしすう 分数指数	p, q が整数（$p \neq 0$）のときは	p, q が整数（$p > 0$）のときは	
p.579	ぶんぷしゅうそく 分布収束	F_n が連続であるすべての点 t で	F が連続であるすべての点 t で	
p.579	ぶんりこうり 分離公理	最後の一覧表の中の 「B_3」,「B_4」	それぞれ 「$\mathrm{B}_1 + \mathrm{B}_3$」,「$\mathrm{B}_1 + \mathrm{B}_4$」に修正	
p.585	へいしゅうごう 閉集合	つまり，F とその閉包 $\overline{F}$ とが一致するとき,	これは，F とその閉包 $\overline{F}$ とが一致することと同値で，そのとき	
p.587	へいほうじょうよのそうごほうそく 平方剰余の相互法則	$\left(\dfrac{a}{p}\right) = a^{\frac{p-1}{2}} \pmod p$	$\left(\dfrac{a}{p}\right) \equiv a^{\frac{p-1}{2}} \pmod p$	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.592	ベキじょうほう ベキ乗法	n 次正方行列 A	n 次実対称行列 A	
		適当な初期ベクトル	適当な初期ベクトル（詳しくは，A の固有ベクトルの一次結合で表したとき，最大固有値に対応する成分が 0 でないもの）	
		反復式 $\boldsymbol{x}^{(k)} = A\boldsymbol{x}^{(k-1)}$	反復式 $\boldsymbol{x}^{(k)} = A\boldsymbol{x}^{(k-1)}/\\|A\boldsymbol{x}^{(k-1)}\\|$	
p.594	ベクトルひょうじ —表示	$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{a}_0 = t\boldsymbol{a}$	$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{a}_0 + t\boldsymbol{a}$	
		$d = \dfrac{\boldsymbol{n}\cdot\overrightarrow{\mathrm{PQ}}}{\lvert\boldsymbol{n}\rvert}$	$d = \dfrac{\lvert\boldsymbol{n}\cdot\overrightarrow{\mathrm{PQ}}\rvert}{\lvert\boldsymbol{n}\rvert}$	
p.598	ヘルダーのふとうしき —の不等式	二つの数列 $a_1, \ldots$	二つの正数列 $a_1, \ldots$	
p.599	ベルヌーイ（ヨハン）	ゲッティンゲン大学教授	グローニンゲン大学教授	
p.599	ペルほうていしき —方程式	D が完全平方でない自然数のときでも	D が完全平方でない自然数のとき	
		の解をもつことが	の整数解をもつことが	
p.607	ポアンカレぐん —群	「= 基本群」	削除し，本文に以下を記載する．「ミンコフスキー空間の計量を保つ線形変換のなす群．」	
p.607	ホイヘンス	Christian	Christiaan	
p.608	ほうきょくりつ 法曲率	1 点における法線と，	1 点における法線 $\boldsymbol{n}$ と，	
p.608	ぼうけいさんじゅつ 棒計算術	Rabdologia	Rabdologiae	
p.611	ほうたい 胞体	有界な点集合	有界な閉集合	
		凸胞体と位相同型*な集合を胞体という．	位相空間 X の部分集合 e に対して，凸胞体 σ から e の閉包 $\overline{e}$ の上への連続写像 φ があり， φ が σ の内部から e への位相同型となるとき，e は（φ を特性写像とする）胞体であるという．また，e を開胞体， $\overline{e}$ を閉胞体ということもある．	
		たとえば，$\cdots$ は胞体である．	たとえば，$\cdots$ は閉胞体である．	
p.612	ほうべきのていり 方ベキの定理	$\mathrm{AP}\cdot\mathrm{PB} = \mathrm{PO}^2 \sim r^2$	$\mathrm{AP}\cdot\mathrm{PB} = \lvert\mathrm{PO}^2 - r^2\rvert$	$\mathrm{PO}^2 \sim r^2$ は 2 数の差を表す表記（項目「差の記号」参照）ですが，誤解を与えないよう絶対値を用いて表すことにします．
p.614	ほかんほう 補間法	関数の値 $f(x)$ を求める	関数 $f(x)$ の近似値を求める	
p.616	ほそく 歩則	歩則	歩測	
p.619	ホモトピー	Y^X の弧で結べるとき，	Y^X の弧で連続的に結べるとき，	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.620	ポリア	現スタンフォード大学教授.	スタンフォード大学教授.	
p.623	マックスウェルのほうていしき —の方程式	$\boldsymbol{i}$ は電流密度の	ρ は電荷密度を表し，$\boldsymbol{i}$ は電流密度の	
p.623	まぐれあたりのかくりつ まぐれ当たりの確率	標準偏差は $\sqrt{\dfrac{n(r-1)}{r}}$ である.	標準偏差は $\dfrac{\sqrt{n(r-1)}}{r}$ である.	
p.626	まつわりすう まつわり数	（積分の前の係数）$-\dfrac{1}{4\pi}$	$\dfrac{1}{4\pi}$	
		（被積分関数の分母）$\lvert\boldsymbol{x}-\boldsymbol{y}\rvert$	$\lvert\boldsymbol{x}-\boldsymbol{y}\rvert^3$	
p.631	みつてん 密点	m を測度*として	m をルベーグ測度*として	
p.634	ムーア	（1852–1933）	（1862–1932）	
p.635	むげんこうり 無限公理	$y \cup \{y\} \subset x$	$y \cup \{y\} \in x$	
p.637	むげんとうひきゅうすう 無限等比級数	この級数は $\lvert r\rvert < 1$ のときに限って	$a \neq 0$ ならば，この級数は $\lvert r\rvert < 1$ のときに限って	
p.642	めいすうほう 命数法	（英国流の 2 段目）(ten hundred million)	(ten thousand million)	
p.647	メビウスのはんてんこうしき —の反転公式	$f(n) = \sum_{d\mid n} u(d)F\left(\dfrac{n}{d}\right)$ が成り立つ．ただし，$u(d)$ は $\cdots$	$f(n) = \sum_{d\mid n} \mu(d)F\left(\dfrac{n}{d}\right)$ が成り立つ．ただし，$\mu(d)$ は $\cdots$	メビウスの関数の項目の記号に合わせました.
p.647	メルセンヌ	Harmonic universelle	Harmonie universelle	
		完備数	完全数	
p.650	も（ん）じ 文字	代数学では $\cdots$	数学では $\cdots$	
p.660	ゆうげんせいせい 有限生成	群 G が有限生成であるとは,	アーベル群 G が有限生成であるとは,	
p.662	ゆうしんにじきょくせん 有心 2 次曲線	適当な座標変換により	適当な等長一次変換により	
		$\dfrac{x^2}{a^2}+\dfrac{y^2}{b^2}=1$	$\dfrac{x^2}{\alpha^2}+\dfrac{y^2}{\beta^2}=1$	
		$\dfrac{x^2}{a^2}-\dfrac{y^2}{b^2}=1$	$\dfrac{x^2}{\alpha^2}-\dfrac{y^2}{\beta^2}=1$	
p.667	ゆびひょうじ 指表示	また，株式などの取引においては今日でも使われている.	また，取引が電子化される以前は，証券取引所で用いられていた.	
p.668	ようせん 葉線	$y^2 = -x^2(x/3-a)$	$(x+a)y^2 = -x^2(x/3-a)$	
		$(c = -\sqrt{2a})$	$(c = \sqrt{2a})$	
p.672	よわいいそう 弱い位相	集合 S に二つの位相	集合 S 上の二つの位相	
p.672	よんしょくもんだい 四色問題	（第二段落の最後）「一般の場合の 4 色問題の解決だけ，膨大な計算が $\cdots$」	「一般の場合の 4 色問題の解決には，膨大な計算が $\cdots$」	

ページ	項目	誤	正・訂正	備考
p.683	りきがくてきエネルギーほぞんのほうそく 力学的 — 保存の法則	v は質点の速度の大きさ,	v は質点の速度の大きさ，g は重力加速度,	
p.689	リーマンのゼータかんすう —のゼータ関数	$\displaystyle\prod_{p:素数}\left(1+\frac{1}{p^{-s}}\right)^{-1}$	$\displaystyle\prod_{p:素数}\left(1-\frac{1}{p^{s}}\right)^{-1}$	第 2 版 2 刷で修正
p.690	りゅうすうのていり 留数の定理	$f(z)$ は単一閉曲線 C 上 $\cdots$ であるとする.	$f(z)$ は単一閉曲線 C の近傍および C 内において， C 内にある有限個の点 $z_1, z_2, \ldots, z_n$ を除いて正則であるとする.	
p.700	れいいんし 零因子		以下を最後に追加 「なお，零元を左（右）零因子とする場合もある.」	
p.700	れいぎょうれつ 零行列	2 次と 3 次の零行列は $\cdots$	2 次と $(2,3)$ 型の零行列は $\cdots$	
p.707	れんぞくりょう 連続量	単位を定めると，その量を表わす数があらゆる実数値をとりうる量のこと.	単位を定めると，その量を表わす数がある範囲内のあらゆる実数値をとりうる量のこと.	
p.708	れんぶんすう 連分数	任意の実数 x はそれを超えない $\cdots$	整数でない任意の実数 x は，それを超えない $\cdots$	
p.709	れんりつほうていしき 連立方程式	方程式の含む未知数の数が 1 個，2 個，3 個， $\cdots$， m 個となるに従って 1 元， 2 元，3 元，$\cdots$，m 元の連立方程式といい,	方程式の含む未知数の個数が 2 個, 3 個, $\ldots, m$ 個となるに従って 2 元, 3 元, $\ldots$, m 元の連立方程式といい,	
p.712	ろっかくけい 六角形	6 点を次々に六つの線分で結びつけてできる図形.	どの 3 点も同一直線上にない 6 点を次々に 6 つの線分で結びつけてできる図形.	
p.713	ろばのはし 驢馬の橋	前世紀	19 世紀	
p.717	わ 和	S_n の極限をもとの数列の和という.	S_n の極限が存在すれば，それをもとの数列の和という.	